

# コピー問題をもっと知ろう

～コピーパーナー導入のすすめ～



**ANK** ANK SOFTWARE 株式会社アंक

コピペとは、コピー&ペーストを略した言葉で、コンピューター上でデータをコピーし、そのデータをほかの部分に貼り付ける（ペースト）ことを指します。すでにあるデータを簡単に加工して再利用できるのは、コンピューターの大きな強みですが、今、このコピペが学生のレポートなどでさかんに行われ、問題になっています。

## コピペの定義

学生などの間で行われている「コピペ」は、一般に言われる「コピー&ペースト」より、よくない方向の意味合いを含むようです。そこで、本書におけるコピペの定義を明確にしておきましょう。

金沢工業大学大学院 知的財産科学研究センター長の杉光一成教授は、コピペのことを、次のように定義しています。

コンピューターのコピー&ペースト機能を用い、  
他人の文章等を写して自分の文章等と詐称する行為

同じ意味で使われる言葉としては、<sup>ひょうせつ</sup>剽窃（**plagiarism**）、盗用、無断利用、無断転載などがあります。他人の文章をそのままコピーして、あたかも自分の意見のように文章を作り上げるコピペは、いまや教育上の大きな問題の1つと言えます。



## 学生のレポートとコピペ

大学や大学院（特に文系の学部）では学生に対して、レポートを提出させることがよくあります。学生は、出題されたテーマに関する資料や文献を用意し、これを踏まえて、自分の考えを述べたり、結論を導き出したりすることが求められます。

以前であれば、資料や文献は図書館などで苦労して調べるものでしたが、昨今ではインターネットに接続したコンピューターを使って、世界中のあらゆる文書を閲覧することができます。ところが、このようにして得られた情報を安易に自分のレポートにコピペする行為が今、学生の間で蔓延しています。杉光一成教授が、2010年に発表した論文の中で行ったアンケートによれば、35%の学生が「コピペを行ったことがある」と回答しています。さらに同論文では、今後コピペが拡大し、低年齢化する可能性を指摘しています。<sup>ii</sup>

後で述べるように、他の資料や文献の一部を転載して利用すること自体は、正しい手順を踏んでいる限り、問題のある行為ではありません。しかし、コピペで問題となるケースの多くは、他の文書の一部または全部をコピーすることで、他人の意見をあたかも自分の考えのように述べたり、結論の部分まで丸写ししてしまったりするというものです。

### 教員は学生のコピペに気が付く？

教育の現場では、同じ授業を受けている学生がインターネット上の同じ文献をコピペした結果、同じ文面のレポートがいくつも出てくるという事態が実際に起きています。文章が学生のこれまでの成績に似つかわしくない文章であったり、語尾の「ですます」が不統一だったりして発覚するケースもあるようです。

しかし、各々の学生が別の場所からコピペしていたらそれを見つけ出すには大変困難です。また、コピペが疑われても、それをどこからコピペしたのかは調べてみないとわかりません。



## 引用とコピペは何が違うのでしょうか

レポートなどの文書を作成するとき、他の論文等の文章を一部転載し、それに対し意見を述べたりするケースは多々ありますが、このときの転載は「引用」と呼ばれます。引用は、著作権法で次のような条件付きで認められています。

### 著作権法 第三十二条

公表された著作物は、引用して利用することができる。この場合において、その引用は、公正な慣行に合致するものであり、かつ、報道、批評、研究その他の引用の目的上正当な範囲内で行なわれるものでなければならない。

また、文化庁がウェブ上で公開している著作権に関する解説本「著作権テキスト」(<http://www.bunka.go.jp/chosakuken/text/>)には、さらに実際に即した解説があります。この中で、文献を引用する場合に守るべき点として以下のことが挙げられています。

- 必要性や必然性がある範囲内で引用する  
引用する箇所は、必要最小限にとどめ、自分のレポートの趣旨と関係がない部分まで引用しないようにします。
- 自分の作品部分が主、引用した部分が従という関係を維持する  
自分の文章よりも引用箇所の方があからさまに多かったり、主張や結論を自分の文章では行わず、引用の文章に任せてしまったりしてはいけません。
- 引用した部分と、それ以外の部分を『』などで明確に区別する  
自分の文章と引用、または異なる箇所からの引用が一目でわかるようにしておきます。
- 出所（出典）を明示する  
引用箇所の近くに記述するか、脚注をつけるなどして出典を明記しておきます。本書でも1ページ目と2ページ目で実践しています。

引用箇所と出典の明示は、具体的には、次の例のようになっているとよいでしょう。

金沢工業大学大学院 知的財産科学研究センター長の杉光一成教授も『日本の大学が世界から取り残されないためには各大学の自主的な取組みだけでなく、国レベルでの取組みが必要ではないかと実感した。』と述べています。<sup>i</sup>

『』などで引用箇所を区別します

脚注などで出典を明記します

<sup>i</sup> 杉光一成：“大学等における「コピー」問題の現状と対策及びその課題” 2010 PC カンファレンス  
<https://www.gakkai-center.jp/pcc/2010/papers/pdf/58.pdf>

### 引用箇所と出典の表示の例

#### 著作権について

文章、音楽、美術、プログラムなど、人の思想感情を創作的に表現したものを著作物といい、著作物を生み出した人を著作者といいます。著作者は著作物の使い方を決める権利を持っており、これを著作権といいます。著作権は、著作者が著作物を生み出したときに自然に発生する権利です。

著作権は大きく財産権と著作者人格権に分けることができ、財産権の方は他の人や法人に譲渡することができます。財産権を譲渡された人を著作権者といいます。

なお、法令のなど、一部著作権の保護の対象とならないものもあります。また、営利目的以外の教育活動など、複製が認められているケースもあります。

コピーで著作権を侵害した場合には、権利者によって著作物の利用停止や損害賠償、不当に得た利益の返還などを請求されることがあります。また、懲役や罰金などの刑罰が課せられることもあります。





## コピーすると何が問題なのでしょう

コピーすると、コピーした本人やその関係者がいろいろな不利益を被ります。

### ■ 発覚したときのリスク

学生のレポートでコピーが発覚した場合、減点や単位の取り消しなどのペナルティが課される場合があります。欧米では退学等の厳しい処分になることが多いようです。また、社会人のコピーは、損害賠償など会社に大きな損失を与えることもあります。

### ■ 学習効果を得られない

他人の文章をコピーしただけでは、自分で考える力や文章の構成能力、表現力が身につけません。結果として社会人になってもコピーのレポートしか作れず、本人が困ることになります。物心ついたときからインターネットがある環境に育った世代はコピーに何の疑問を持っていない人も多く、学校での教育が重要です。

### ■ 誤った情報の学習や伝達

内容をよく吟味しないでコピーすると、誤った情報のレポートを提出したり、覚えてしまったりすることもあります。たとえばよく参考にされる Wikipedia にも多くの間違いがあるようです。他人の間違った文章をコピーした場合も同様です。

### ■ 不当な評価

レポートを評価する人がコピーに気付かなかった場合、コピーした人に対して不当に良い評価を与えてしまうことがあります。結果として、コピーをしていないまじめな学生が相対的に低く評価される原因になってしまいます。実力が正しく評価されないのは、教育の根幹にかかわることです。

## コピペをなくしていくために

インターネット時代において、安易なコピペをなくしていくには、学校での教育がとりわけ重要です。今までは大学が指導の主な対象でしたが、ITの環境普及とリテラシー向上に伴い、高等学校、中学校、小学校での指導がより重要になってくると思われます。

指導の方針としては、次の3つが基本になります。

### ■ コピペをしないよう指導する

先に挙げたようなコピペのデメリットを説明し、コピペをしないように指導します。読書感想文サイトなどのようにコピペを推奨しているようなサイトからコピペしないように指導することも有効です。また、正しい引用の仕方を教えるようにしましょう。

### ■ コピペをチェックする

レポートを評価する教員は、そのレポートがコピペされていないかどうかを確認するようにしなくてはなりません。すべてのレポートの全文をインターネットで検索するなどして確認するのは大変な労力と時間がかかるので、チェックツールを使うのもよいでしょう。

### ■ コピペを注意する

コピペを見つけたら、些細なことでもその都度注意していくことが重要です。高学歴・社会人になればなるほどコピペが発覚したときのペナルティは重くなりますので、早いうちからきちんと指摘していくことが大切です。

引用≠コピペ



IT社会に適應した社会人を育てていくという意味で、コピペ対策とコピペに関する教育は、いっそう重要度を増してくるでしょう。

## ◆ コピペルナーのご紹介

レポートの中からコピペを見つけ出すのは、とても時間がかかる作業です。コピペルナーは、インターネット上の文書、または手元の登録済みの文献から、レポートの中のコピペと思われる部分を自動的に検出するソフトウェアです。コピペルナーを利用することで、教師のコピペチェックにかかる時間を短縮するのに役立ちます。金沢工業大学知的財産科学研究センター長の杉光一成教授が考案し、株式会社アंकが2009年に開発しました。

The screenshot shows the 'コピペルナー-V3 (課題レポート)' window. The main area displays the detection results for the file '仮想世界と知的財産\_佐藤花子.doc'. A yellow bar at the top indicates a 'コピペ割合' (Plagiarism Ratio) of 75.0%. Below this, the detected text is shown with red highlights. The text discusses '仮想ワールドの実例(セカンドライフ)' and mentions '知的財産' (Intellectual Property) and '仮想空間' (Virtual Space). A table on the right, titled '比較レポート' (Comparison Report), lists three reports with their respective file names and plagiarism percentages: '課題レポート' (68.6%), '仮想世界と知的財産...' (68.6%), and 'http://pari.u-tokyo.a...' (25.0%). At the bottom, there are buttons for '印刷...' (Print), 'プレビュー...' (Preview), and '閉じる' (Close).

レポート名	ファイル名	コピペ率
課題レポート	仮想世界と知的財産_...	68.6%
課題レポート	仮想世界と知的財産_...	68.6%
課題レポート	http://pari.u-tokyo.a...	25.0%

コピペ判定結果詳細画面



## コピペルナーのチェックのしくみ

コピペルナーは、レポートから自動的に抽出キーワードをインターネットのサーチエンジンにかけ、ヒットした上位の Web ページに対して全文検索を行います。検索キーワードによって比較対象の Web ページも変わりますので、レポートの内容によってはヒット率が下がることもあります。その場合はキーワードを自分で指定することも可能です。なお、コピペに利用されやすい Wikipedia は、既定で最初に検索するようになっています。

## コピペルナーの特徴

コピペルナーには Windows 環境で動作するクライアント版の「コピペルナーV3」と複数の教員が同時に利用できる「コピペルナー サーバー」のラインナップがあります。コピペルナーの主な特徴は以下の通りです。

- レポートの読み込み、検索条件設定、検索実行の3ステップで簡単操作
- 判定結果をパーセント表示し、コピペ箇所は色付けして表示
- レポートは Word 文書、PDF 文書、テキスト文書に対応
- Web ページや手元の文献とだけではなく、レポートどうしも比較
- 文章の語尾が変化しても一致する、あいまい検索に対応
- 正式な引用をチェックから除外可能
- レポートどうしのコピペの相関を図示可能（コピペルナーV3のみ）

### 判定結果の見方について

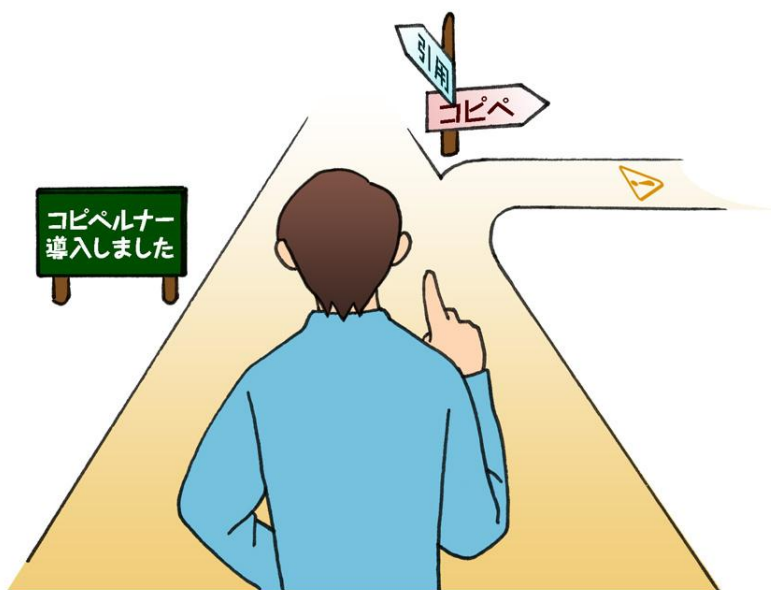
判定結果は、レポートの良し悪しを直接示すものではありません。数字が大きくてもレポートの作成者が引用のルールをきちんと理解していないだけで、実はしっかり考えられた内容かもしれませんし、検索キーワードが適切でない等の理由で、低い数字が出てしまうこともあります。判定結果を良いとするか悪いとするかはあくまで教員の判断です。

## コピペルナー導入の効果

おかげさまで、コピペルナーは、2012年3月時点で293の教育機関に導入されています。ご利用の皆様からは「自分で見つけられなかったコピペを見つげられた」「コピペがたくさん見つかってびっくりした」という声を多数いただいております。

コピペルナー導入の効果は、コピペ発見の効率化だけではありません。事前に学生に対して、「コピペルナーにかけるぞ」と通知しておくことで、コピペの抑止力としての効果も発揮しているようです。また、正式な引用を除外する機能もあるので、引用のルールが守られているかをチェックするのにも役立ちます。

コピペルナーは評価版もご用意しております。興味をお持ちの方は、弊社までご連絡ください。



---

杉光一成：“コピー問題を考える～大学などで今起こっているレポート作成の問題と対応策～” 第10回図書館総合展フォーラム、2008年11月26日(accessed Jun/11/2010)

<http://www.jpanknowledge.com/contents/jkvoice/seminar/seminar20090301.html>

杉光一成：“大学等における「コピー」問題の現状と対策及びその課題” 2010 PC カンファレンス <https://www.gakkai-center.jp/pcc/2010/papers/pdf/58.pdf>

**制作・著作 株式会社アंक**

Copyright © 2013 ANK Co.,Ltd. All rights reserved.

記載されている内容は、2013年1月現在のものです

【コピーペルナーのお問い合わせ先】

製品 URL : <http://www.ank.co.jp/works/products/copyelna/>

Mail : [nocopype@ank.co.jp](mailto:nocopype@ank.co.jp)

